



popo

2013年
第6号

法人理念：「共生と自立」

利用者：生活の中で楽しく健やかに生き、生きる力を育むこと

職員：チームワークを持って仕事に励み、創造性を持って自己啓発すること

地域：地域との絆を保ち、地域との共助、協働を旨とすること

ポポ

社会福祉法人 蒼生会 広報委員会発行

平成25年度9月21日土曜日に、第15回カシオペア祭が開催されました。

今年のテーマは「共に生きる」で、特別養護老人ホームモモ・保育園モモ・保育園ピノ・コミュニティホームピノの4施設合同で取り行われました。

特養モモでは、毎年恒例のカフェモモをなくし、縁日広場として、世代を問わず楽しめる場を提供しました。

私が担当した紐引きゲームでは、何が当たるか分からないドキドキ



カシオペア祭

感、当たった時の喜びや外れた時の悔しさに、胸を躍らせる様子に場も盛り上がり、皆さんに楽しまれた出し物になったと思います。私が印象に残った事は、高齢者の方で普段あまり意欲的でない方が、紐を引くという動作に集中してグイグイ引っ張り、商品をゲットし笑顔を見せたことです。自分で目的を達成し、品物を得る事に人間らしさを感じました。

世代が偏ることなく、高齢者・園児・一般の多くの方に参加して頂き、笑顔が交わる様子に胸が温かくなりました。

高齢者の方は、小さな子と接することで普段見せないような表情で、日常生活にはない刺激に活き活きとした姿を見せてくれた事に、こういった催しがとても大事であると改めて実感させられました。

メインステージでは、歌遊びや手遊び、楽器演奏が行われ、一体感のある出し物に笑顔が溢れていました。又、カメラカメラでは、沢山の方から寄付された温もりある品物が揃い、人から人へ物が移ろいで行く様に、物の大切さを感じさせられました。

合同でのお祭りは、規模が大きい



分だけ楽しみも増えますが、それだけリスクも高まることになります。しかし、今回のカシオペア祭では大きな事故もなく、テーマに沿った世代間交流が行われ、人の温かさが垣間見える御祭になったと思います。

佐藤 のぞみ

ピノ夕涼み会

コミュニティセンターピノ、コミュニティホームピノ、シヨートステイピノがそれぞれオープンしてから、まだ4か月と短い期間ですが、入居者・家族・職員との親睦も含め、夕涼み会を行いました。

当施設には、中庭や屋上等、スペースを有効に使える場所があり、そこを使用しました。中庭と駐車スペースでは、焼き鳥やカレーライス、夏らしい物でかき氷の提供。また、デイサービスが南国風のカフェをオープンしました。

カレーライスは職員で手作りし、



皆さんに好評で喜んで頂けました。焼き鳥は、専用の機械をレンタルし、炭を使い、その場で焼いてお祭りの屋台をイメージし、こちらも皆さんに好評でした。普段あまり食べない物を提供し、皆さんに喜んで頂け、準備をした職員も笑顔が溢れました。かき氷も季節にあったものを提供出来たので、喜ばれる方も見られました。

屋上には、夏定番のビアガーデンを設置。出し物も、焼き鳥・枝豆・流しそうめん・ビール等、皆さんが楽しめる・食べたい物を提供出来たと思います。流しそうめんは、皆さんなかなか見られる機会がなく、珍しそうに見ている方も多く、家族の方々にも喜んで頂けました。初めての挑戦で、うまく行かないこともありましたが、職員同士で協力し、入居者・家族には温かい目で見て頂けたと思います。流しそうめん用の竹も館長の庭にある竹をもらい一から作りました。

枝豆も珍しいのか、皆さんに人気がありました。また、家族と共にビールを飲まれる入居者もいらつしや

り、話を伺うと、「久しぶりに飲んでおいしかった」と、顔もやや赤くなり、ほろ酔いで楽しまれている方も見受けられました。

メインイベントはスイカ割りを屋上で行いました。最初は入居者にやって頂き、二回目は参加して頂いた家族に行なって頂きました。家族の方は目隠しをし、観覧されている皆さんで「左！左！」等と声を出しながら皆さん一生懸命に応援。楽しそうな様子が見られました。

また、当日には厚木市での花火大会もあり、屋上から遠くに見える花火を「綺麗ねえ」と、皆さんも大感動。

来年も、今年以上に楽しんで頂けるよう、職員一同力を合わせ、準備



をしていきたいと思っています。準備等を手伝って頂いた、家族の方々にも感謝を申し上げると共に、来年も同様のご協力を頂きたく、お願い致します。

持丸 聖弥



世代間交流



蒼生会では、定期的に老人ホームと保育園とで交流をする機会を作っています。

「こんにちは〜」「かわいいねえ」園児達がお散歩で施設を訪問すると、お年寄りの方々が優しく声を掛けてくださるので、緊張していた子ども達も安心して笑顔を見せています。保育園に帰ると「タッチしたよ」「お手々ギョツつてしたの」と嬉しそうに会話を弾ませています。年長児になると、お年寄りの方々と



ちぎり絵や手遊び、簡単な体操などのレクリエーションも行い、より深い交流をしています。また、施設に訪問するだけでなく、散歩に出かける時に施設の横を通るとデザイナービスの方々が「いつてらっしゃい」と手を振ってくださいます。子ども達も笑顔で応えている姿を見て、小さな関わりから世代を越えて人とのつながりができているのだなど実感します。

ある時、いつものように園児達が老人ホームモモを訪問すると、一人



のお年寄りの方が訪問に来てくれたことに感動し涙を流していました。子ども達は「どうして泣いているの？」とお年寄りの方の周りに集まっていきました。保育園に帰ってからも「泣いてたよね」といつまでも心配し話題にしていました。

日頃の生活では経験しにくくなってきたこのようなふれあいがあると、世代間交流を行って良かったとしみじみ思います。そして、今は何故泣いているのか分からない

い子ども達ですが、将来理解が出来るようになったとき、きつとこの経験を思い出し、心を暖かくすることでしょう。

様々な世代との交流が難しい社会環境の中で、このような機会は貴重です。年齢の幅が広がる事で様々な経験ができるようになり、より家庭的な環境が整います。子ども達にとっただけでなく、交流する一人ひとりにとって有意義な時間になるように、今後も取り組んでいきたいと思えます。

保育園モモ 白井 美緒



保育園交流

保育園ピノも開園4年目を迎え、今年度は5歳児のひなぎくクラスは16名となり、日々の活動にも活気が出てきました。保育園モモのひなぎくクラス15名のお友達と、様々な交流を行っています。

5月、保育園モモで「ひなぎくコンサート」が行われました。ピノの子ども達もコンサートに参加し、皆でひなぎくクラスに進級した事を喜び、保育園モモの先生方が楽器を奏で、祝ってくださいました。



その後は保育園モモのたんぼぼホールにて自己紹介がてら手遊びをしました。手遊びをして互いの恥ずかしさや緊張が解けてから、モモ対ピノで座り相撲を行い、白熱した戦いを応援する子ども達の声がホールに響いていました。

6月、今度はモモのひなぎくクラスのお友達が、ピノに遊びに来てくれました。この日は、いつもピノの子ども達が散歩に行っているふれあい広場に一緒に出掛けました。バツタを捕まえたり「ネコとネズミ」



というゲームをしたり、しっぽ取りをして広場を駆け回り、再び座り相撲をして盛り上がる子ども達でした。たつぷりと遊んだ後は、保育園



ピノに戻り、まつの実組（5歳児クラス保育室）で一緒に昼食を食べました。子ども達は、隣に座ったお友達との会話も弾み、にぎやかな食事の時間を過ごしました。



7月、8月は鶴野森プールでの交流となりました。7月の予定日はあいにく天候が不安定で延期になりましたが、8月に入り2回行くことができました。この頃になるとお友

達の顔や名前がわかるようになり、「あっ〇〇ちゃん、〇〇くん」「また会ったね」などと声をかけ合う姿も見られるようになりました。大きなプールにモモのお友達も一緒に子ども達は大はしゃぎでした。泳いだり、もぐったり、保育士に手を引いてもらい水の中でゆらゆらと動いてみたりと大好きなプール遊びを思う存分楽しみました。

この先も、運動遊びなどの行事や散歩などで交流する機会が度々あります。子ども達が楽しい時間を過ごして、沢山の思い出を作りたいと思います。

保育園ピノ 阿部美幸



風船バレー大会

6月9日に『施設対抗風船バレー大会』が開催されました。

施設対抗風船バレー大会は、古くから交流のある【東橋本ひまわりホーム】と【中の郷】の2施設の老人ホームの皆さんと共に、年に2回、風船バレー大会を行っています。一般的なバレーボールとは違い、風船を使用している為、身体にぶつかっても痛くない！また、落ちてくる速度もゆっくりの為、子どもから高齢者まで幅広く行えるスポーツです。



高齢者の皆さんに風船バレーに

今年も参加したいですかと声を掛けると、元気よく「今年も行けるの！楽しみだね。風船バレーやりたい、やりたい！」と期待の声がたくさん聞かれました。又、送りだす職員・スタッフからも「今年は優勝できそうだね。」と熱い声援が寄せられてました。今回の風船バレーは他施設での開催だった為、参加可能人数が限られてしまいましたが、参加されたメンバーは最後まで元気に風船バレーを楽しまれておりました。

結果は・・・準々決勝でした。三チーム中、三位という残念な思いもしました。皆さんの活躍には職員も多々、興奮してしまう場面もありました。普段はあまりご自分から身体を動かそうとされない方でも、風船バレーのようにスポーツとして楽しみながら身体のリハビリも兼ねて取り組んでいます。今回の開催が10月なので、またこれから皆さんで風船バレーの練習をして、優勝目指して頑張りたいと思います。

大類 雅裕

スイカ割り



特養では8月11日と18日におやつレクと銘打ってスイカ割りを利用者で行いました。

夏らしさを感じて頂ける様に利用者には法被を着て頂きました。利用者全員がスイカ割りに参加できるようにしたところ、何度もたいたスイカはバラバラになってしまいました。又、半分ほど割れてきた辺りで一人の利用者が「スイカが割れて行くにつれてスイカの良い匂いがしてくるね。」と周りの方も鼻が効かせており、楽しんで頂けている様子が伺えました。

皆とても上手くスイカに棒を当てられていました。皆で割ったスイ

カは厨房で切り分けられ、利用者に提供しました。

当日はとても暑く施設内では、冷房を入れていたものの暑さを感じるほどでしたが、スイカは良く冷えており「冷たくて美味しい。」や「甘くて美味しい。」と言われ、とても笑顔で美味しそうに召し上がられていました。

スイカ割りが終わった後も、よほど楽しかったのか法被をずっと着ていた利用者もいました。

平田 一喜



デイサービス 菖蒲園

デイサービスでは、毎年6月頃に外出を行なっています。毎年恒例行事となっている事もあり、利用者の皆さんからは「今年も行けるのね。」「お花は綺麗に咲いているかしら」など喜んで頂ける声が多く聞かれました。

今年も、県立相模原公園にありま
す菖蒲園に行ってきました。モモか
ら菖蒲園までは車で移動し、その後
お散歩感覚で利用者の皆さん、ボラ
ンティアさん、職員と一緒に園内を
散策しました。菖蒲園と名の付く通
り菖蒲の花がとても多く素敵に咲
いていました。恥ずかしながら、私
自身は菖蒲というお花を知らなか
ったという事もあり、綺麗なお花を
目の前に、私が一番楽しんでいたか
もしれません。



園内は緑が多く車から降りた利
用者方は「風が心地良い」「自然の
香りがするね」など室内では味わえ
ない外出ならではの雰囲気を感じ
て頂けたかと思えます。外の空気を
吸う事によって解放感からか、「昔、
よくこんな池で蛙を捕まえた」「小
さな頃に家の近くで咲いていた菖
蒲を思い出すわ」など利用者同士と
ても会話が弾んでいました。

今回、公園管理者様、ボランティア
アに来て下さった方々と多くの方
の助けがあり行なえた外出でした。
利用者皆さんが笑顔になってくだ
さる行事なので、今後も続けて行き
たいと思っております。

デイサービスセンターモモ

長井 航騎

ケアハウス ラジオ体操

平成24年度から、入居者の提案
でラジオ体操が開始されました。

身体能力をできるだけ長く維持
していくために、毎日体を動かそう
と散歩へ行ったり買い物へ出掛け
たりと皆さん日々努力しています。
真夏の暑い日差しの中外出するこ
とや、冬に凍える寒さの中外出する
のが億劫と部屋で閉じこもってし
まいがちです。そんな時、いつでも
気軽に誰にでもできるラジオ体操
があります。

ラジオ体操といえば小学校の頃、
夏休みに皆勤賞をもらうために早
起きして頑張ったものです。懐かし
い聞きなれた音楽に合わせて毎朝
10分間行なっています。毎日参加
される方や外出予定があっても少
しだけでも：と参加される方もい
て4〜5名程が参加されています。
もつとも今はラジオではなくテレ
ビですが、一日の始まりに少しの時
間でも運動する事で血行が良くな
り頭がすっきりとします。そして、
普段日常生活で使わない筋肉を動
かす事で体のバランスが整います。



生活の中に潜んでいる危険の中
で高齢者が最も注意しなければい
けないのが転倒です。もしも骨折に
繋がってしまうと今までの生活が
一変して寝たきりの生活になって
しまうこともあります。ラジオ体操
は同じ運動を繰り返し行う事で反
射運動が鍛えられ、転倒予防にも繋
がります。また、一緒に運動する方
と関わりも生まれ運動後には「やっ
ぱり運動は気持ちが良いね。ラジオ
体操ってしつかりやると結構疲れ
るね。お疲れさま。」と笑顔で声を
掛け合い居室に戻られます。
健康のためにも皆さんとこれか
らも朝のラジオ体操を続けていき
たいと思います。

大谷 真美

居宅便り

平成二十五年四月に管理者が変更となり、翌五月にはケアマネジャーを一名増員したことで、今年度より職員三名体制での新しい居宅サービスセンターモモが始動してから半年以上が経過しました。

居宅介護支援事業所の役割とは、ケアマネジャーが利用者の心身の状態や家族の状況、それぞれの希望などをお伺いしてケアプランを作成し、適切な介護サービスの利用が図られるようコーディネートする事です。

様々な理由により介護サービスの利用が必要になられた方の多くは、今まで通り住み慣れた我が家で不自由なく暮らしたいと考えている事と思います。しかしながら身体は思うように動かず、今まで独りで自由に行なえていた事が難しくなるなどの、辛い現実には直面されている方も多く居られるのではないのでしょうか。ケアプランとは、そのような方々に必要と考えられる介護サービスとは何か、また、それをど

の程度の頻度で利用していくのかを定めた生活支援の計画書です。

私たちケアマネジャーが作成するケアプランは、それまで通りの日常生活に少しでも近づく事ができるよう、何ができて何ができないのかを分析し、できない部分を介護保険のサービス等で補えるよう計画していきます。

ケアマネジャーは利用者を直接的に支援する立場ではなく、サービス提供事業所や行政機関との橋渡しのような存在であり、実際の介護に携わるわけではないので、介護者に比べると無力な立場とも言えます。けれども、ケアマネジャーが利用者や家族の想いを聴かせて頂き、その気持ちに寄り添ったケアプランを作成し、関連機関との連携を深めていく事で、質のいい介護サービス提供へと繋がるよう日々努力しております。

介護保険の制度は様々で、保険者(市区町村)によっても異なるサービスがあります。自分に残された力を活かしながらも上手に介護サービスを利用して頂き、これからの在宅生活を末永く安心して過ごす事が出来るよう、どんな小さな事でも

抱え込まず、お気軽にケアマネジャーにご相談ください。

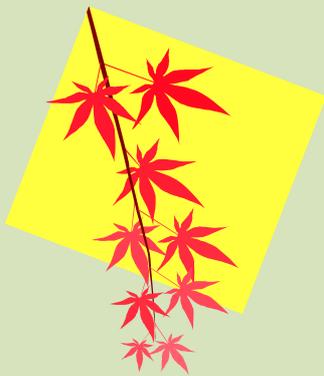
これからも三人で力を合わせ、少しでも皆さんの力になれるよう努めて参ります。どうぞ宜しくお願い致します。

● 主な業務内容

・介護認定を申請されていない六十歳(疾病等が該当する四十歳)以上の方の申請手続きを代行致します

・認定調査の結果が「要介護(一〜五)」と判定された方の担当ケアマネジャーに就く事ができます

・以後、先述のとおり在宅生活の継続に必要な介護サービスの調整やケアプラン作成をさせていただきます。



社会福祉法人蒼生会

- 〒252-0301 相模原市南区鶴野森1丁目22番17号 ホームページ <http://sosaykai.org/>
- 特別養護老人ホーム モモ TEL 042-767-8030 ●居宅サービスセンター モモ TEL 042-767-8278
 - ショートステイ モモ TEL 042-767-8030 ●デイサービスセンター モモ TEL 042-767-8280
 - ケアハウス モモ TEL 042-767-8281 FAX 042-767-8032 (共通)
- 〒252-0301 相模原市南区鶴野森1丁目15番12号
- コミュニティホーム ピノ ●ショートステイ ピノ ●コミュニティセンター ピノ
 - TEL 042-745-1701 FAX 042-745-2745
- 〒252-0301 相模原市南区鶴野森1丁目21番4号
- 保育園 モモ TEL 042-767-8470 FAX 042-767-8475
- 〒252-0344 相模原市南区古淵1丁目8番1号
- 保育園 ピノ TEL 042-750-0065 FAX 042-750-0068